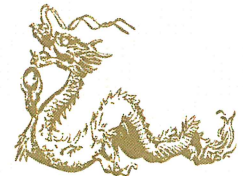




実施要項



名 称	第 18 回 アジア競技大会(インドネシア・パレンバン) ドラゴンボート(男子 10 人艇、女子 10 人艇)派遣選考会		
主 催	公益社団法人日本カヌー連盟 (JCF) 埼玉ドラゴン実行委員会		
共 催	一般社団法人日本ドラゴンボート協会(JDBA)		
主 管	埼玉ドラゴン実行委員会		
協 力	埼玉県カヌー協会 行幸湖カヌークラブ		
開催期日	平成29年 4月 15日(土) 【雨天決行】 ※予備日 平成29年 4月 23日(日)		
競技会場	権現堂調節池(行幸湖)特設会場 埼玉県/幸手市		
競技日程	リーダーミーティング	4月15日(土)	10:00~ 行幸湖カヌー艇庫
	開 会 式		10:30~ 行幸湖カヌー艇庫前式典会場
	競 技 開 始		11:30~ 権現堂調節池(行幸湖)特設会場
	閉 会 式		17:00(予定) 行幸湖カヌー艇庫前式典会場
競技種目	「男子種目」及び「女子種目」 第 18 回アジア競技大会 派遣選考会 (男子 10 人艇、女子 10 人艇) 直線レース 500m×3漕、200m×3漕 6漕の合計タイムで順位を決定する。 合計タイムが同タイムの場合は、同タイムチームにより、500m ×1漕、200m×1漕を行い、合計タイムで順位を決定する。		
	注)本大会の 1 位のチームは、「第18回アジア競技大会」にて正式種目として決定された場合、日本ナショナルチーム候補として JCF 選考委員会に推挙する。		
競技方法	1) 2016 国際カヌー連盟(ICF)ドラゴンボート競技規則等による。 2) 10 人艇(スィフト)4艇を使用する。 3)レーン幅9m(1・2・3・4レーン)直線コースを使用する。 4)競技中の安全確保については、セルフレスキューとする。		

参加資格
チーム編成

第18回アジア競技大会
派遣選考会
(男子10人艇、女子10人艇)

①クルー全員がJCFにA登録またはJDBAにAチーム登録していること、又は登録手続き中であること。また未登録チームのオープン参加を認める。

② シニア(18歳以上)

③チーム編成は「男子種目」及び「女子種目」とし、監督、ドラマー、ステアラーの男女は問わない。

・監督:1人 ・パドラー:10人 ・ドラマー:1人

・ステアラー:1人 ・サブ:2人以内 15人以内

※ライフジャケットの着用は、競技者の自己責任のもと自由とする。

※チーム内にキャプテン1名を選出しておくこと。

参加料 1) 1チーム50,000円

※チーム登録された人数分の保険代を含む。

2)参加費は下記宛て振り込むこと。

3)一度振り込まれた参加費は、大会事務局の判断により参加をお断りする場合を除き、自然災害や事件、事故等により大会を中止した場合でも一切返還しない。

<振込先>

埼玉りそな銀行 栗橋支店 普通 4052899

ドラゴンボート実行委員会 事務局 保坂善彦 (ホサカ ヨシヒコ)

申込方法

所定の参加申込書式(JCF・JDBA 各ホームページからダウンロード可)に必要事項を記入し、下記「埼玉ドラゴン実行委員会」へ郵送またはメールで申し込むこと。

E-mail ayashoot@ybb.ne.jp

※参加申込書・参加費確認により申込み完了とする。

申込期間

平成29年 2月 20日(月) AM9:00 から

平成29年 4月 3日(月) PM5:00 まで受付

そ の 他

- 1)主催者は、傷病や紛失、その他の事故に際し、応急処置を除いて一切の責任を負わない。
- 2)大会出場中の映像・写真・記事・記録・テレビ・新聞・雑誌・インターネット等への肖像権等は主催者に属する。
- 3)本大会での優勝チームを、2018年 第18回アジア競技大会（パレンバン/インドネシア）に出場する日本ナショナルチーム候補としてJCF選考委員会に推挙する。
但し、予定されている国際大会への参加が難しいと判断された場合は、2位以下のチームまたは選考会に参加した選手を加え推挙する場合がある。
- 4)選考結果については、JCFホームページにて公表する。
- 5)派遣費用及びナショナルチームユニフォーム等に係る費用は、JOC の派遣規定に基づく。
- 6)ナショナルチームメンバーは、居住地等都道府県カヌー協会を経た JCF のA会員登録者であること。
- 7)大会最終オーダーまでの間、チームリーダーは当選考会参加選手をもって選手の変更を行う事ができる。
- 8)アジア競技大会へ向けた強化練習に当たり、埼玉ドラゴンボート大会実行委員会より、行幸湖にて練習艇を貸与する。
- 9)強化練習における必要経費（傷害保険への加入・交通費等）はチームで負担すること。
- 10)ナショナルチームの最終編成は、別途 JCF ドラゴンカヌー運営委員会と協議し決定する。

申 込 先 問 合 せ

■申込先

〒349-1212 埼玉県加須市麦倉 911-5
埼玉ドラゴン実行委員会 事務局 保坂善彦
TEL 090(9136)7800 E-mail ayashoot@ybb.ne.jp

■大会運営・競技会に関する事項

〒355-0024 埼玉県東松山市六軒町 16-28 ヴァンシユルメルB号室
ドラゴンカヌー競技運営委員会 委員長 村田幸範
TEL 090(2308)4237 E-mail gqyf3xe9@vanilla.ocn.ne.jp

■アジア競技大会派遣に関する事項

〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内
公益社団法人日本カヌー連盟 事務局
TEL 03(3481)2400

— 注 意 事 項 —

1. 一般事項

- ① 当日の天候等により、競技日程を予備日に変更する場合がある。その場合は、チームリーダーミーティングを開催し説明する。
- ② チームリーダーは、午前10時00分からのチームリーダーミーティングへ出席するとともに、大会役員との連絡係を担うこと。
- ③ クルーは、午前10時30分からの開会式に間に合うよう式典会場に集合し、主催者の指示に従い、チーム毎に整列すること。
- ④ 主催者は、不適切と思われる参加者の競技への参加を拒否できるものとする。
- ⑤ 車で来場する場合には、会場の駐車スペースが限られるため乗り合わせて来場し、所定の位置に駐車すること。(駐車場内での事故・トラブル・盗難に関し、主催者は一切責任を負わない)
- ⑥ クルーが故意または重大な過失により、ボートまたは備品を破損もしくは滅失したときは、当該者もしくは当該チームはその損害を賠償しなければならない。
- ⑦ チームの控所は決められた場所に設営すること。特に管理用道路上および本部・決勝テントや記録掲示板周辺へのテント・シート等の設営は禁止する。

2. レースの方法について

- ① 「男子種目」・「女子種目」ともに、直線コース 500m×3漕、200m×3漕を実施する。
- ② 組み合わせは事前に大会事務局で行い、大会当日のチームリーダーミーティングの際に主催者から発表する。
- ③ 500m×3漕、200m×3漕の合計6漕の合計タイムで順位を決定する。なお合計タイムが同タイムの場合は、同タイムのチームにより、500m×1漕・200m×1漕の合計タイムにより、順位を決定する。
- ④ 異議申し立てについては、結果発表後20分以内に、チームリーダーが競技委員長(本部テント内)宛て文書にて抗議書を提出すること。

3. 安全対策について

- ① 競技者は、各自安全確保に努めるとともに、自己管理を行うこと。
- ② 自己責任での参加とするが、チームリーダーは、各選手の健康とケガ防止に留意すること。心臓病や運動中に胸の痛み、気を失ったことのある選手及びペースメーカーを着用している選手の参加は認めない。
- ③ 大会が修了するまで、競技会場内での飲酒は禁止する。また艇上での喫煙も禁止する。
- ④ 競技者同士あるいはチーム内で発生したケガ、遭難、死亡事故などの責任について、主催・共催・主管・協力の各団体は、参加者に対し、応急処置以上の責任を負わない。
- ⑤ ライフジャケットの着用は、競技者の自己責任のもと自由とする。(ライフジャケットは主催者側で用意する。)
- ⑥ 乗艇の際選手は決められた漕席に着き、前後及び左右のメンバーを確認すること。漕席は、最前列左席が1番、右席が2番、次列左席が3番、右席が4番となり、以下順次5列(9、10)まで決める。
- ⑦ 水上で事故が発生したときは、ドラマー又はステアラーの号令で点呼を取りお互いの無事を確認すること。転覆した場合は、ボートにつかまり救助艇による救助を待つこと。

- ⑧ 水上での安全管理上の責任は、チームリーダー(キャプテン)が負うものとする。※危険なため、決してボートを裏返したり、勝手にボートに乗り込まないこと。

4. スタート前の集合及び乗艇について

- ① チームの構成は、監督・パドラー・ドラマー・ステアラー・サブ2名の合計15名以内とし、選手の配置は、事前に決定しておくこと。
- ② JDBAもしくはIDBF公認済のパドルを使用すること。
※大会当日のパドル検定は行わないため、未公認パドルは使用できない。
- ③ 当該レースに参加するチームは、レース開始時間の10分前に、マーシャリングエリアにドラマーを先頭に漕席順に2列で集合し待機すること。
- ④ 参加クルーは、競技役員の指示に従い、ボートの中央から速やかに乗艇すること。手・指を保護するための用具(ゴムなどで補強された手袋)、漕席等の敷物、マリンシューズの使用は認める。(スニーカーやビーチサンダル等で乗艇することはできない)
- ⑤ 漕ぎ手は、進行方向を向いて座って漕ぐこと。また、裸の選手は、乗艇を認めない。
- ⑥ 乗艇後は最短距離をもって、速やかにスタート地点へ移動すること。
- ⑦ あらかじめボートによって漕ぐレーン(奇数レーンを使用)が決定されているので(1号艇:1レーン・2号艇:3レーン・3号艇:5レーン・4号艇:7レーン)該当するレーンのスタート地点に移動しスタートの合図を待つこと。
 - ① スタート1分前に銅鑼で合図を行う。アライナーの指示で、スタートラインにドラゴン・ヘッドを揃えること。
 - ② スタートの用意ができた艇は、ドラマーがバチを太鼓の上に置くこと。パドルを水中に静止した状態でスタートを待つことができる。
 - ③ スタートの合図は、スターターの「オールクルー」「アテンション・ゴー」(Attention Go)の掛け声で知らせる。
 - ④ スタートの合図が完全に終わらないうちにパドリングをはじめた場合は、False Start(フライング)とみなされ、直ちにレースを中止し再スタートする。
 - ⑤ 同じ組で、2度目にFalse Start があった場合、レースは続行されるが、False Start したチームは5秒のペナルティーとする。False Start の判断責任者は、スターターである。

5. レース後の降艇について

- ① ゴールしたチームは、速やかに降艇場所に向かい、降艇すること。
- ② ボート中心に位置するパドラーは、可能な限りボート内の水をかき出すこと。